

尊天筆如來出現併不焼寺古跡略縁起書抜

佐太本山記録写

抑当山安置之本尊石清水八幡宮御本身の如來出現の瀧傷は人皇五十六代清和天皇の御宇男山の開山行教上人貞觀元年夏九旬の方施をささげ心中に八幡宮の御本身を拜し奉らん事を祈念するに同年七月十五日の夜八幡宮まのあたり御本身を現じさせ給ひ行教の袈裟の上に弥陀観音勢至の三尊と移らせ給ふ全く是れ彩筆を以て系がきける尊像にあらず天質自然の筆なれば世に是を天筆如來と稱し奉る。行教此由を帝に奏し申されければ觀感淺からずして男山に御社を造営ありて則ち勅使を立てられ此の本尊を宝殿の内に納奉りて八幡大菩薩の御本身と崇め奉られける。數百年を経て人皇九十七代 光明院の御宇八幡宮山の別当善法寺に神勅ましまして我れ先に本身を出現せし事は偏に利物結縁のためなりといへども時未だいたらざれば五百年來勅封にして宝殿にあり今正に時を得たり早く 勅封を開き念仏門の本尊として諸人に結縁せしめよとの御告度々に及ひしゆへ別當此由を一身にひろめ奏聞を以て當寺に伝來し奉る。八幡宮御本身の尊像永 宣言を賜は放光殿と 勅号を賜ひ住持には紫衣の永 宣言を賜ふて代々 參内昇殿せしめ給ふて 天顏を拜禮し住職の儀 勅命を賜ひ一個の 勅願所一宗の本山となりぬ

さて茲にやけぬの古跡と申すは当山と深き因縁あり当山本尊 天筆男山の宝殿を出し奉り初に撰津国深江の法明上人へ渡らせ給ふ時に貞三亥年法明上人終焉の近きを知り給ふて当山の開山誠阿上人へ遺言し給ふには我れ往生の後此本尊併宝物を護持し奉り未だ念仏弘通すべしと附囑し給ふ依て誠阿上人より外にあらざること猶河内国大庭の莊は上人生縁の地なれば早くかしこに至りて一寺を建立し念仏弘通すべしと附囑し給ふ依て誠阿上人本尊併宝物を獲持して歸り給ふに法明の遺弟等はなほだそねみて本尊を奪ひ取らんと上人を追う事しきりなりければ何方に身を寄せかかれんと思ひわづらぬに守口といふ処の南に一字の古堂ありければかくれんとし給ふに堅く戸を閉じたりければ上人誓ていわく此本尊我に因縁ましまさば戸を開き我をかくし給へと誓けるに戸おのづから開き入り給ひければ戸もとの如く閉まりけり遺弟等此堂にかくることを知るといへども入るべきやうなければ火を放てやかんとするに火たちまちに滅してやけず又堂内に貴き御声あり

八幡大神宮

不焼宮（やけずのみや 縁起）

鎮座 大阪市旭区清水三丁目二十番十九号
御祭神 八幡大神
春日大神
蛭子大神

〔由緒〕
天智天皇(661～671)の頃、現在地の辺りに藤原氏が春日大神を産土神として祀ったのが始まりといわれている。
別名を「^{やけずのみや}不焼宮」といわれている。これは建武・延元(1334～1339)の頃、浄土宗本山来迎寺の開祖誠阿上人が師法明上人の遺命をうけ、男山八幡宮の宝物を授かって、北河内佐太に寺院を建立するために帰る途中、これをねたむ法明上人の弟子達に追われて当宮に身を隠したが、見つけ出されて火を放たれた。



しかし、火はたちまちにして消えてしまい、追ってきた弟子達は誠阿上人の徳に接し、ついには上人に帰依したといわれている。以来、「不焼宮」と称されるようになった。

その後、誠阿上人は、佐太に来迎寺を建立し、当時の保護にむくいる為、男山八幡宮の御分霊を当宮に奉祀したのが、八幡大神を御祭神とした由来である。この縁によりて来迎寺の住職の交代毎に当社に来拝するのを例とし現在も続く。

数年後、疫病の流行にて多数の村民が死亡し、誠阿上人に悪病退散の加持祈禱を乞いその靈験により村民の病が平癒したので、従来の主神を相殿として八幡大神を主神とした。

はちまんだいじんぐう 八幡大神宮

かつて馬場村の集落北端 字榎並に鎮座し、応神天皇・春日大神・蛭子大神を祀る。旧村社。「撰津志」には「三社神祠」とみえ、馬場・般若寺・別所・上辻の鎮守。

境内は四百余坪にて老楠老榎が生い茂り社頭をおおう。本殿の他に幣殿・拜殿・御輿庫を存す。本殿は室町末期の手法を蛙股・肘木・斗に残し彩色は稚拙なるも最高の技法を用いている。

尚、五輪塔一部、徳川初期石灯籠を残す。例祭は九月十五日 佐太来迎寺より貫主以下参拝し、神仏合体の祭典をなす。

夏祭：七月十五日
秋祭：十月二十三日
現在、例祭と夏祭の斎行は第二日曜日。



写真■八幡大神宮 本殿



図■八幡大神宮「宮入り木遣り音頭」

てなんじ等知らずや此上人は西方極楽世界の脇土親世音菩薩なり念仏を弘めんためにかりに世に出て給ふもし悪心をもつて儲をむすばん輩は永劫悪趣に随ひて出離の期なからんと某時本尊の御身より光明を放ち給へば彼等たちまち回心して上人に帰依しとも大庭の莊に來りて給仕せりしかしてより此堂を不焼寺と名付て当山の末寺なり
又不焼寺を村の名として開山誠阿上人の壇越なりさて某節来迎の本尊を護持しければ此村の東北に來迎といふ処今にあり其後三年を経て此処に兵五といふもの此五カ村を領しけるものにて異性あるものなるが常に殺生をこのみ人の難儀をいとほさる大悪無道のものなるがあるとき神社仏閣は地所を費やすのみにて益なきもとのとごとく破却しける冥罰にや二百日をすぎず内に一族十九人残らず疫病にくるしむもの七分までも死したりければ家名断絶す然るに此一族の靈魂疫病となり我家断絶せば此の所も滅せしめんと崇をなし里人疫病に苦しむもの七分までも死したりければ五カ村の男女此由を誠阿上人に嘆きければ上人はいはく我先に急難を免るる処なれば今又なんじ等が病難を救へしとて不焼寺の地に修し給ふ靈魂は得脱し病人はこごとく平癒しける此時開山誠阿上人の計ひを以て本身 如來は我山に詣て拜すべし此地には垂跡を安置すべしとして方三尺の社を造り 八幡宮を安置し給ふて永く此所の鎮守とあがめさせ給ふ開山上人の修徳によつてあやふき子孫を相続しければ当山旧跡数多ありといへども相互に因縁深き古跡と申すは此処なり
右御縁起併記録之内不焼寺之由来のみ書抜候也
当山御縁起者
南都東大寺別当兼華嚴宗長吏前大僧上道如之御筆
同 御前題者
前天台座主妙法院宮二品兼延法親王之御筆
同 御箱者
時宝永三丙戌年当山茲海上人之代江戸表より御召ありて 常憲院様 本尊の由来縁起 御上覽あらせられみきりも
第一の古跡不焼寺の因縁 上聞にも達し御寄附候

文■記録写

大関 松乃音関

上辻村出身の大関に「松乃音関」がいました。八幡大神宮に松乃音の碑があります。大正時代当時相撲協会が関東相撲と関西相撲に分かれていました。関西相撲では最高位が大関でした。『東成郡記』



写真■大関 松乃音



写真■八幡大神宮 松乃音の碑

上辻町盆踊りの歴史

- 上辻町（清水3西町会）
- 昭和52年(1977)8月～53年(1978)8月〔2年間〕
 - ・江州音頭会（桜川唯丸会）を招待して町内の盆踊りを開始
- 昭和54年(1979)8月〔10年間〕
 - ・江州音頭上辻会 結成
 - ・町内青年会、町会役員が音頭をとる
- 昭和63年(1988)6月11日〔17年間〕
 - ・桜川唯春会 結成
 - ・平成7年(1995) 桜川孝春会と改名
 - ・平成17年(2005)5月7日 桜川孝春会解散
- 平成20年(2008)8月
 - ・江州音頭上辻会 再結成



写真■郷土芸術江州音頭